

JELA NEWS

ジェラニュース 第47号 2018年11月15日発行 発行責任者 渡辺 薫

一般社団法人日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援/世界の子ども支援/ボランティア派遣/リラ・プレカリア(祈りのたて琴)/奨学金制度/宣教師支援

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが躓いていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。 マタイによる福音書25章35～36、40節



13 名が米国ワークキャンプに参加

7月25日～8月7日に13名の若者を米国ペンシルベニア州のワークキャンプに派遣しました。参加者全員、霊的にも人間的にも成長して帰国しました。詳しくは2ページ以降をご覧ください。

【この号にはこんな記事が】

米国ワークキャンプ2018 参加者レポート集/同キャンプ2019参加者募集…… 2～4 クリスマスの祝いかた～天に宝をつむこと～(森川博己)…… 5 第15回世界の子ども支援チャリティコンサート実施結果・来場者感想集…… 6 定年退職記念特別インタビュー(前事務局長×ひろみん)…… 7 ジェラハウス改築へのご寄付に感謝/支援者一覧/読者からの便り/新事務局長からのご挨拶(渡辺薫)/編集余話…… 8



米国ワークキャンプ2018レポート集

テーマ: GRIT (困難や試練を乗り越えるための勇気・忍耐力)

毎年夏に、アメリカ本土およびその周辺国・地域の数十か所で開催される青少年向けキャンプ「グループ・ワークキャンプ」に、JELA はこの 20 年近く日本から青少年を派遣しています。今年も 13 名の若者をペンシルベニア州に送りました。参加者は数日間のホームステイと一週間のワークキャンプを体験しました。

キャンプ宿泊地となる学校には、米国の 9 つの州とカナダ、および日本から 200 名を超える青少年が集いました。そして、財政的に余裕がない人や高齢独り暮らしの人の家をボランティアとして修繕し、キリストの愛を表現しました。参加者は一週間のプログラムを通じて聖書を深く学び、祈りに目が開かれ、イエス・キリストに出会うという、自らの生き方を変えられる体験をします。レポートから参加者の成長を感じ取っていただければ幸いです。

<カタカナ用語の意味>

- デボーション＝聖書を読み、神に祈り、神からの語りかけに心を向けること。キャンプでは仲間と一緒にデボーションをする機会が毎日あります。
- クルー＝同じ家を修繕する 6 人の仲間
- ワーシップソング＝神を讃美する現代風の歌
- レジデント＝修繕対象の家の住人
- ケアカード＝慰め励ます言葉を書いて仲間へ渡すカード

※レポートは、原文の一部を JELA 事務局が編集したものです。全文は JELA ホームページのニュースブログからお読みいただけます。



殿村 真弥・18 歳(熊本県)

2 週間は刺激の連続でした。ホームステイも初めての経験でした。ホストの夫婦は熱心なクリスチャンで、アメリカの一般的なお祈りを教えてください、日本語でお祈りを頼まれることもありましたが、霊的な成長、人としての成長につながることを知りました。



太田 士勇也・16 歳(東京都)

お昼には毎日、デボーションの時間がありました。昼食をとりながら神様のことについて考える時間でした。クルーと作業を続けていくうちに段々みんなと打ち解けていき、最終日には別れが惜しくなるほどの関係になり、人生の大きな糧になったと思っています。



木下 智香子・15 歳(大阪府)

毎日の夜のプログラムやデボーションでその日の反省をしたり、今までの辛かったことや楽しかったことを思い出したりして、一人の時間に涙が出てきたり、みんなとの分かち合いの時間でスッキリしたり、ワーシップソングを分からないながらも歌ったりしました。こんな濃い時間が過ごせるとは思っていなくて楽しかったです。



濱口 理紗子・18 歳(滋賀県)

私はキリスト教徒でもなく、教会に通っているわけでもないです。今まで神様についてこんなに真剣に考えたこと

はなかったです。また、自分の今日一日の出来事を振り返って、反省することも今までなかったので、デボーションを通して良い習慣が身についたと思います。



梅津 幸奈・16 歳(東京都)

2 回目の参加です。ワークキャンプでの学びがきっかけで、今年の 3 月に堅信礼を受けました。デボーションで「今までとは異なるどのような方法でイエスを見て体験したか」を話し合った時、全員同じ答え、「国や言葉や文化が違っても、分かり合い、助け合い、神様の愛を伝えるために行動する仲間を通してイエスさまを感じることができた」がすぐに浮かびました。これから信仰の道を歩む中で、この経験は私の大きな支えになると思います。



玉置 千紘・16 歳(東京都)

お昼のデボーションでのことです。その日は私が初めてお祈りをしなければいけませんでした。お祈りしたいと思ったことが一番神様に伝わるには日本語でやるべきだと思い、そうしました。クルーのみんなはとても喜んでくれました。ありがとうと言って笑いかけた時は、泣きそうになるほど心が温まりました。



井上 水樹・18 歳(京都府)

プログラムで一番印象に残っているのは、自分を赦せるなら鉛筆を折るというものです。私は自分を赦すことが出来ず、折ることができませんでした。自分でもわかりませんが、ここで折ってしまうのは違うなと思いました。このキャンプを通じて、今までの人生の中で一番自分自身と向き合うことができたなと思いました。



平林 和加子・16 歳(東京都)

住んでいる人に完成した家を見せると、涙を流して喜んでくれました。90 歳のおばあさんは私の手を握りながら、「わざわざ日本から来てくれてありがとう。あなたに出会えてよかったわ！あなたたちが直してくれたこの家で、残りの短い人生、楽しむわ！」と話してくれました。勇気を出してアメリカまで来てよかった！と思いました。



森澤 涼帆・16 歳(大分県)

夜はキャンプの参加者全員で神様にお祈りするプログラムがありました。今まで神様に何かをお祈りする機会が多くなかったため、誰かのためにお祈りをするのが、とてもすごいものだと感じました。神様そのものだけでなく自分自身のあり方について、たくさんのことを学べたのではないかと思います。



久保田 咲羽・13 歳(熊本県)

キャンプ 2 日目にホームシックになってしまいました。これは神様が私に与えた試練なんだ、と思いました。日本を発つ前はどうかかなる、と思っていたけれど、全然どうにもならなくて大変で、辛くて…。でも、クルーが助けてくれたり、わかりやすくしゃべってくれたりして、とても嬉しかったです。これは試練ではなくて贈り物だと思いました。



神庭 真実子・18歳(東京都)

木曜日のプログラムの「神はあなたを間違いなく居るべき場所に置かれた」という一言で、自分の中の価値観がガラリと変わりました。今まで受け入れ難い現実や現状に対する不満で、神様から離れた時期もありましたが、神は私を今この場所に意味あって置かれているのだと考え、辛いことも苦しいことも、神様が与えてくださった試練だと思って乗り越えられると思いました。



安藤小泉 海・18歳(熊本県)

朝と夜のプログラムの一つひとつが心に深く刺さり、自分という現実を突きつけられ、自分と神様との関係を考えさせられる、重く、そして素晴らしいものでした。普段は僕たちと同じように遊び、冗談を言っていたアメリカ人のみんなが、プログラムの時は涙を流したり、全く違う表情をしていたことにも、とても大きな衝撃を受け、日本人の参加者とのギャップを考えさせられました。



田代 悠陽・16歳(東京都)

ペンキ塗りをしていて解放的な気持ちになり、日本で流行っている「卍(まんじ)マーク」を壁に描いて楽しんでいました。リーダーから「No!」と言われましたが、悪いことをしている意識はなく止めませんでした。後で日本人スタッフに話したところ、「卍」がナチスの鉤十字に似ているので問題行為だと指摘されて事の重大さを理解しました。泣いて日本人スタッフと一緒に祈った末、クルー・メンバーに謝りに行きました。リーダーが「Yuhi, Smile!」と言ってきて、超嬉しかったです。



米国ワークキャンプ 2019 参加者募集!

- ◆派遣期間：2019年7月24日(水)～8月6日(火)
- ◆テーマ「Relentless(「ハンパない!(仮訳)」
- ◆内容：イリノイ州で一週間のワークキャンプ(家屋修繕、聖書の学び等を通して信仰的・人間的成長を促す催し)に参加し、近隣の州でホームステイもします。
- ◆年齢制限：2019年8月1日現在の年齢が14～20歳であること。
- ◆参加費用：20万円
友達を誘って参加する場合、本人・友人の参加費を5千円ずつ割り月きます!
- ◆問合せ・申込用紙請求先：
150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-20-26
日本福音ルーテル社団(JELA)米国ワークキャンプ係
電話：03-3447-1521(平日9:00～17:00)
FAX：03-3447-1523
E-mail：jela@jela.or.jp
- ◆締切：2019年4月末日必着
募集要項の詳細は、ホームページ(www.jela.or.jp)でもご覧になれます。
皆さまの参加を心よりお待ちしております。



国谷裕子著『キャスターという仕事』(岩波新書)に、「クローズアップ現代」がクリスマスを扱った回の記事が載っています。国谷さんからインタビューされるのは脚本家の倉本聰さん。本番で流す予定のVTRを事前に見せられた倉本さんは、「全然違う、俺は帰る」と憤ったそうです。「クリスマスは何かを人のためにする日だ。このVTRには、こうしてほしい、あれが欲しい、だけが描かれている。まったく違う」ということらしいです。国谷さんはこのエピソードについて、「倉本さんはクリスマスとは本当はどういう日かを話してくれた。私は、大事なことに気づかされた思いがした」と結んでいます。

クリスマスになると今でも、きれいな紙に包まれたおもちゃや野球のグローブを枕元に見つけて大喜びした幼い日のことが、両親の面影とともに懐かしく思い出されます。多くの家庭で見られる、このような親子の愛情の分かち合いも素晴らしいのですが、倉本さんが言う「人のために」は、もう少し広い意味でしょう。国を追われた難民、近くに学校や電気がないアジア貧困地域の住民……こういう人々を含む言葉ではないでしょうか。JELAはそんな方々に支援の手を差し伸べています。

自分の家族や友人との間で楽しむとともに、JELAに寄付をすることで、今年のクリスマスをより充実したものにしませんか。世界は皆さんお一人お一人の愛の捧げものによって、よりよいものへと造り変えられます。捧げる皆さんの心にも、温かいものが流れることでしょう。

以下に、私が事務局長時代に出会った、ある方をご紹介します。この方と同じことができる人は多くないでしょう。私自身にも難しいことです。しかし、少しでもこの方のような人生を歩みたいと思われた、

特別の出会いです。

☆Aさんとの出会い

Aさんに初めてお目にかかったのは、7年前の東日本大震災が発生して一か月ほどしてからです。仙台の高校に向いて、その高校の一年生になったばかりのAさんのお嬢さん(Nさん)と会い、「JELAはあなたを支援します」とお伝えしました。ご本人は、JELAと何の関係もない自分がどうして支援されるのか、半信半疑でした。翌日の夕方、支援内容をご家族にお伝えすべくAさんのお宅を訪問しました。家にはAさん、Aさんのお母さん、Nさんのお姉さんがおられ、膝を交えて話をすることができました。Aさんのご主人は数年前に他界されており、高齢のお母様、Nさんの病身のお姉さん、そして高校に入ったばかりのNさんの三人を、Aさんが外で働くことで支えておられるようでした。AさんはJELAの支援を大変喜んでくださいました。

それから三年間、NさんはJELAの財的支援を得て無事に高校を卒業、希望の大学にも進学し、この4月から社会人として家庭を助けておられます。JELAの東日本大震災被災者支援事業のひとつの大きな成果です。

☆Aさんから突然届いた百万円

Aさん御一家とは暑中見舞いや年賀状を交換するぐらいで、日々の暮らしについて詳しくはわからずじまいでした。ところが2年前の冬、クリスマスを迎える時期にAさんから突然、百万円がJELAに振り込まれました。理解に苦しむことでした。お嬢さんのために提供したJELAの支援金を返却されるのですか、とAさんにお尋ねしたところ、そうではなく、ある事情からまとまったお金が入ったので、その一部をJELAの事業に使ってほしい、ということでした。感謝して受け取り、熊本地震被災学生の学費支援金として利用させていただきました。

この寄付を頂戴したときAさんは、「これで終わりではありません」とおっしゃいました。それを聞いてから一年近く経った昨年と同じ時期に、またもAさんから百万円が届きました。「なるほど、こういうことか」と感謝状をお送りし、ありがたく頂戴しました。今度も、熊本地震被災学生支援金の一部として使わせていただきました。支援金を受けた熊本の学生さんたちには匿名で

Aさんのことを説明し、感謝の手紙を書いてほしいと依頼しました。私宛に届いた手紙をまとめてAさんにお送りしたところ、「そんなことをしていただく必要はありません」とおっしゃり、あくまでも謙虚な姿勢を示されました。

二年続きの驚くべき事実に神様をほめたたえ、奇跡的な寄付金はこれで終わったと思っていたところ、今年の8月上旬に、「西日本豪雨災害のために」という手書きのメモとともに、みたびAさんから百万円が届きました。喜びを乗り越えて、言葉ではうまく表現できない気持ちにかられました。これほどまでにJELAを信頼してくださっているAさん。そのお気持ちになんとしても応えたい、用い方を真剣に考えなければ、と思われたのです。

☆寄付は天に宝をつむこと

JELAが支援者の皆様からいただく寄付金は普通、千円・5千円・1万円という単位で届きます。毎月あるいは年の一定の時期に、何年にもわたって送ってくださる方もたくさんいらっしゃいます。お一人お一人のお気持ちは大変貴重であり、とてもありがたく思っています。

珍しいケースとして、一度に10万円あるいは90万円の寄付をくださった人もあります。どちらもジェラニュースの特定の記事(前者は熊本地震被災者支援、後者はカンボジア水プロジェクト)を読んで送ってくださったものです。支援を要請する記事への直接的な応答であり、事業活動への励ましとして感謝と喜びをもって頂戴しました。

そういう中でもAさんからの三年連続の百万円は、きわめて特別なことであり、JELAにとって類いまれな出来事です。天に宝をつむむとはこのようなお金の使い方を言うのでしょうか。Aさんのように、そしてすべての寄付者の皆様のように、謙虚に、惜しみなく、困った人を助ける思いから自分の財産を分け与えることができる、そんな存在に私もしてくださいと、神様に祈らないではいられません。そのような気持ちを与えてくださったすべての寄付者の皆様に感謝するとともに、Aさんのお付き合いをここに記すことで、私たちの喜びと驚きの源泉である神様への感謝を表現させていただきます。いつも私たちを導き、助けてくださる神様、ありがとうございます。

第15回世界の子ども支援チャリティコンサート 実施結果のご報告



♪ 真野謡子さんのヴァイオリンの表情の豊かさ、美しさ、高い精神的なものへの憧れ、色々な世界に聴く者を、私をいざなってくださいませ。
 ♪ ギターの演奏、しかも世界一のクラシックギター奏者の音色と技術・奏法のすばらしさを味わえ、幸福でした。
 ♪ 最高のお二人の名演奏で心に汲み

入りました。音楽という、神様からの素晴らしい贈り物に感謝し、主の御名を賛美します
 ♪ もったいない素晴らしい演奏でした。この事業に感謝いたします。
 ♪ 素晴らしいとしかいいようのないコンサートで、チャリティのお役に立て幸いです。
 ♪ 満点(5)以上(5+)です。

ご来場、ありがとうございました



Thank
You

5月から7月にかけて全国17(過去最多)の日本福音ルーテル教会で行ったコンサートは、どの会場でも好評を博しました。演奏者はヴァイオリンの真野謡子さん(3回目)とギターの松田弦さん(初登場)。来場者総数は1,009名、頂いた献金の総額は1,276,177円でした。皆さまの暖かいご支援に心より感謝申し上げます。

今回頂いた献金は、熊本地震の被災学生の学費支援に用いられます。ただし、宇部教会(山口県宇部市)と西条教会(広島県東広島市)の計114,436円につきましては会場教会に託し、今年7月に発生した西日本豪雨災害支援に用いていただくこととしました。被災地の復興をお祈りいたします。

*来場者からいただいた感想の一部をご紹介します。

♪ 繊細なヴァイオリンの響きとそれを暖かく受け入れるギターの音色、涙が出るほどの感動でした。
 ♪ 毎月N響に行っていますが、こんなに身近で見て聴いて、選曲も最高でした。

JELA事務局長だった森川博己が10月末日に退職しました。1999年4月から約20年をJELAと共に歩み、世界の子ども支援・春のチャリティコンサート・海外ワークキャンプなど、多数の事業に草創期から関わりました。

退職日翌日(11月1日)に某所で行ったインタビューを以下にお届けします。聞き手は「編集余話」を今号で引退する、ひろみんです。(頭文字のM=森川博己、H=ひろみん)

H:お疲れさまでした。今のお気持ちは?

M: 館ひろし、です。

H:?

M:「終わった人」。

H:でも、まだ理事でしょ?

M:そうか、終わっちゃいけないんだ。

H:しっかりしてください。ところで、この20年で最も印象深かったことは?

M:通勤沿線の古本屋が何軒もなくなったことかな。

H:?...仕事の話なんです。

M:それなら、米国ワークキャンプ。2年目に派遣した仙台の女の子の感想文に感動しました。これ読んでください。「イエスはこうして、あたし達と同じように辛くて苦しかったのに、あたしなんかのために死んでくださったんだ。こんなあたしなんかのために死んでくれたなんて、そんなに愛していただきたんだ。今まで聖書を読んで知っていたはずなのに、唐突にわかったのです。知識としてではなく、事実として、理解することができたのです。わかったら、本当に泣きました。感動とか、そういう言葉で表せるものではなく、嬉しくて辛くて泣きました」(『るうてる』2002年10月15日号より)

H:「あたし」と書くなんて、かわいい!
 M:どこ見てるの、あんた。私なんか、これ読んで泣きましたよ。
 H:顔に似合わず涙もろいんですね。ほかに心に残る経験は?

M:あれは、退職日の3か月以上前でした。賞味期限切れ間近とはいえ、まだ私が事務局長なのに、「事務局長 ○○○様」と次期事務局長名が印刷された封書が届いたんです。早く辞めると神様が催促されたのでしょうか。今でも大事にとってあります。お金や切手も印刷間違いは価値があるんですよね?

H:そんな手紙、何の価値もありませんよ。ところで、事務局長時代のあなたの業績は?

M:オマエに業績めいたものがあるのか、という問いですね。(じっくり考えて)自慢じゃありませんが、「川柳ひろば」は私の発案です(と、自慢た

らしく言う)。
 H:それだけ考えて、それ? ちょっとマジメな話をしましょう。経営学者のドラッカーがある本に書いてます。「私が13歳のとき、宗教の先生が、君たちは何によって憶えられたいかねと聞いた。誰も答えられなかった。すると、今答えられると思って聞いたわけじゃない。でも50になっても答えられなければ、人生を無駄に過ごしたことになるよ、と言った」(『非営利組織の経営』)。森川さん、65歳でしたね。何によって憶えられたいですか?
 M:(決然と)早く忘れられたいです! 無理にとおっしゃるなら、「気前のいい上司」として憶えてほしいね。この一年、安いランチをせっせとおごり、部下たちの記憶に残る努力を怠りませんでしたよ、私は。
 H:理解不能ですが、ま、いいでしょう。...なんかやり残したことは?
 M:それはもう、AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」です。曲に合わせて素人が踊る、あれ。何年前かにハヤッタでしょ。JELAで取り組めば、役員バージョン、支援地バージョン、ワークカンパーバージョン...事業展開の有力な武器になったことでしょうか。新事務局長には、ぜひ実現してほしいものです。私もゲスト出演にやぶさかではありません。
 H:ついていけない、この人。最後に何か言い残すことがあれば...。
 M:辞世の句ですか? じゃ、お言葉に甘えて川柳を。
 ・忘れるな繁忙期こそユーモアを

らしく言う)。

H:それだけ考えて、それ? ちょっとマジメな話をしましょう。経営学者のドラッカーがある本に書いてます。「私が13歳のとき、宗教の先生が、君たちは何によって憶えられたいかねと聞いた。誰も答えられなかった。すると、今答えられると思って聞いたわけじゃない。でも50になっても答えられなければ、人生を無駄に過ごしたことになるよ、と言った」(『非営利組織の経営』)。森川さん、65歳でしたね。何によって憶えられたいですか?
 M:(決然と)早く忘れられたいです! 無理にとおっしゃるなら、「気前のいい上司」として憶えてほしいね。この一年、安いランチをせっせとおごり、部下たちの記憶に残る努力を怠りませんでしたよ、私は。
 H:理解不能ですが、ま、いいでしょう。...なんかやり残したことは?
 M:それはもう、AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」です。曲に合わせて素人が踊る、あれ。何年前かにハヤッタでしょ。JELAで取り組めば、役員バージョン、支援地バージョン、ワークカンパーバージョン...事業展開の有力な武器になったことでしょうか。新事務局長には、ぜひ実現してほしいものです。私もゲスト出演にやぶさかではありません。
 H:ついていけない、この人。最後に何か言い残すことがあれば...。
 M:辞世の句ですか? じゃ、お言葉に甘えて川柳を。
 ・忘れるな繁忙期こそユーモアを

・祈りなさい苦難来た時去った時
 ・おごりなさい後輩たちに給料日
 ・おごりなさい退職者らにボーナス日
 ・イエス様何はなくともイエス様
 H:そのへんでストップ!! あんた、退職して何するつもり? せっかくだから聞いとくましよう。
 M:カール・バルトが自叙伝でこんなこと言ってます。「私の次男の好きな言葉で終わりたいと思う。『誰でも自分のできることをするものである』。過去10年間、私は自分のできることをして来た。将来もそうして行きたいと思っている」。
 H:さすが20世紀を代表する神学者だね。で、あんたは?
 M:過去65年間、私は自分の好き勝手なことをやって来た。将来もそうして行きたいと思っている。それが神のみこころに叶いますように。アーメン!
 H:自分と神様の優先順位が逆じゃない? きょうは長い時間、つまらない話をありがとうございました。しょっぱなに現在の心境を聞いたので、しめくりに、その心境を聖句で表現してもらいましょうか。ほんとに最後ですから、きれいに終わってくださいよ。
 M:ハレルヤ! コリントの信徒への手紙二の4章16節はどうでしょう。「...たとえわたしたちの『外なる人』が衰えていくとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされていきます」。日々新たにされた内なる人によって、川柳ひろばへの投句に励みますんで、新しい管理人さん、よろしく。(完)

定年退職記念 驚天満開さよならインタビュー

ひろみん×森川博己



ジェラハウス改築へのご寄付に感謝

本紙 45・46 号で、難民申請者用シェルター「ジェラハウス」改築へのご協力をお願いしました。現在までに、のべ 23 件、合計 377,500 円の寄付が寄せられています。ありがとうございます。ひとつお断りですが、途中で設計変更の必要が生じたため、竣工は 2019 年 2 月以降にずれ込むことになりました。完成時にはホームページなどでお知らせいたします。今後の工事が無事に進むようお祈りいただくと幸いです。「ハウス改築」と指定した、さらなる寄付も受け付けておりますので、よろしくお祈り申し上げます。

新事務局長からのご挨拶

渡辺 薫



この 11 月から、JELA 事務局長を務めます、渡辺薫です。2015 年に財務・会計担当として JELA に入職して以来、再び、新たなチャレンジです。天地創造の偉大な神様が、一個人の人生をも心にかけて導いてくださるという事実を、日々の仕事を通して思い起こしています。

1909 年に創設された JELA のミッションとは何か。あらためて自らに問うてみました。JELA は、マタイの福音書 25 章 35-36、40 節を主題聖句としています。「わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し…」とある箇所です。今回、この箇所を読み返す中で、一つの思いに至りました。後の時代にいたるまで、この価値観を伝えられる次世代リーダーの育成に携わることこそが、JELA のミッションではないか、そこに神様が栄光をあらわしてくださるのではないかと、この思いです。

JELA には皆さまに人的・財的にお支えいただきたいプロジェクトがたくさんあります。その一つ一つに誠実に取り組むことで、このかけがえのない価値観を次世代に伝えようと信じ、事務局一同、力を合わせて前進いたします。どうぞご支援をよろしくお祈りいたします。皆様のお祈りを心より感謝申し上げます。

読者からの便り

払込取扱票の通信欄に書いてあるメッセージや、事務所に届いたお便りの最近のものを以下にご紹介します。

- ♥お働きの上に神様からの祝福が豊かにありますように。
- ♥主から託された働きをされている人々の上に、主の愛と光と平安とが満ち満ちていますように！健康が守られますようにと祈ります。
- ♥いつも JELA NEWS をありがとうございます。「主のために」共にがんばりましょう。
- ♥息子がカンボジアワークキャンプに参加しました。8、7 年前。
- ♥主の働きのためにお使い下さいますように。
- ♥連日の猛暑、ご自愛下さい。
- ♥チャリティコンサート、ありがとうございました。
- ♥日本福音ルーテル社団の働きを祈ります。
- ♥2019 年度の高校生・中学生のサマー奉仕海外キャンプに中 2 になる双子を参加させたいと祈っています。
- ♥キャロル先生、応援しています。先日、鳴子でお会いしました。
- ♥ジェラハウス改築に協力したい。
- ♥娘が大変お世話になって、又この度のカンボジアワークキャンプでは貴重な経験をありがとうございました。
- ♥今年の暑さには大変な思いをしています。皆様の上に主のお守りをお祈りしています。
- ♥管理人ひろみん様、大変お疲れさまでした。今後は愉快的な川柳を気張って吐く側ですね。少しですが、何かのお役に立ててください。
- ♥本当にわずかですが、神さまのご用の為にお役立て頂けますなら嬉しいです。社団の皆様お一人おひとりが神様に祝われます様に。

支援者一覧

(2018 年 6 月 1 日～9 月 30 日)

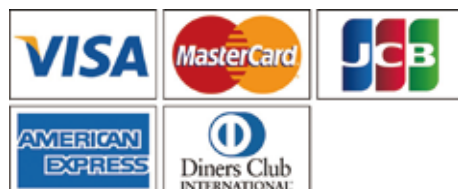
青木孝士 / 安部春子 / 安藤恵 / 安藤淑子 / 池田哲也 / 井上秀樹 / 岩本保子 / 大石敏和 / 大金修・よし子 / 大谷忠雄 / 大塚眞佐子 / 大嶺愛持・裸覇武・十六夜 / 柿沢純江 / 加藤俊輔 / 北川勝弘 / 京谷信代 / 熊沢こう / 倉知延章 / 小泉基 / 小松由美 / 権藤久喜 / 佐々木純子 / 佐々木裕子 / 杉浦りえ / 高橋悠美子 / 武井順太郎 / 田坂仁 / 鳥飼勝隆・豊子 / 中山純郎 / 中山玲子 / 仲吉智子 / 那須幸 / 野田千恵子 / 芳賀美江 / 長谷川美子 / 針田ゆかり / 羽矢通子 / 平林洋子 / 廣幸朝子 / 福嶋知恵子 / 福地明子 / 星野幸子 / 松本幸恵 / 南節子 / 村上洋也 / 村松正義 / 八坂由貴子 / 矢崎皓一 / 山県順子 / 山下勉 / 山本了 / 吉川信一 / 若原奇美子 / JELC 市ヶ谷教会 / JELC 玉名教会

以上、順不同・敬称略。ご支援ありがとうございます。匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

編集余話

「あなたの作品でどれがベストですか？」と聞かれ、ある映画監督はいつも「次回作!」と答えたそうだ。創刊号 (2003 年 8 月) から続く私の編集余話 (当初は「編集後記」) も、この監督と同じ思いで綴ってきた。次回から執筆者が変わるので、過去 15 年分を振り返ってみることにする。創刊号は、事実を記しただけで味もそっけもない。少し余裕が見られるのは 3 号から。4 号ではジョン・ポーマン師の奇蹟的な働きの記事に絡めて、G・K・チェスタトン『ブラウン神父の童心』に出てくるセリフ、「奇蹟というものの一番信じ難い点は、それが現に起こることだ」を引用し遊んでいる。以降は娘がらみで、保育園のクリスマス会で聴いた素朴な歌の紹介 (5 号)、学校の期末試験にザビエルやルターが出题されるのに「キリストの福音」が出ない不思議 (12 号)、アルバイト用接客マニュアル通りに娘が父である私をもてなさないことへの不満 (28 号) 等々、娘に嫌われそうなことを平気で書いている (詳しくは、ホームページのジェラニュース・バックナンバー欄を参照)。ちなみに 21 号で吉永小百合さんの人気に触れたら、6 年後の一年前、ご本人とお目にかかり言葉を交わす機会に恵まれた。事務局長の役得。今後はそれがないのが悔やまれるが、神は必ずや別のワクワクを用意しておられるであらう。皆さん、長い間ありがとうございます! (ひろみん)

JELAの活動にご支援を!
各種献金のご送金は下記をご利用ください。



ホームページからクレジットカードでご寄付いただけます!

JELA
Japan Evangelical Lutheran Association

一般社団法人日本福音ルーテル社団
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26
Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523
Email: jela@jela.or.jp
HP: http://www.jela.or.jp
郵便振替口座番号: 00140-0-669206
加入者名: 一般社団法人日本福音ルーテル社団